

コード	名 称	区分	コード	名 称
事業名	1046 有害鳥獣駆除事業	会計	01	一般会計
		款	06	農林業費
		項	02	林業振興費
基本 施策	42 持続的で個性的な農林業を实践する	目	02	林業振興費
		細目	321	有害鳥獣駆除事業
行革大綱の重点事項番号		7	細目	51
担当部署	コード	700100	担当者	47 - 1157
	名称	大山田支所振興課	氏名	安岡健司
		連絡先	(内線)	

事務事業の概要 (Plan)

対象(誰を、何を)	農作物及び地域住民等	※対象件数
成果(どうする)	農作物・畑作物への被害の削減を図る。	
根拠法令・要綱等	鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律・三重県有害鳥獣捕獲許可事務取扱要領	
開始年度	昭和 55 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H21 事業内容	有害鳥獣による農作物等の被害を低減させるため、伊賀市猟友会に捕獲駆除を委託し、生息数の適正化と地域における農作物被害の減少に努めました。 野猿捕獲報償費 18,980円×7頭 = 132,860円 (農林振興課予算) 野猿捕獲檻管理業務委託料 456,600円 (川北・鳳凰寺・上阿波・甲野・炊村の5地区) 賠償責任保険 3,000円 土地借上料 22,494円	
社会情勢の変化等		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体	委託先
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H20	H21	H22	H23
野猿捕獲頭数		頭	目標	15	目標	20
			実績	30	実績	7
その他有害鳥獣捕獲頭数(シカ・イノシシ)		頭	目標	30	目標	50
			実績	70	実績	85

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H20	H21	H22	H23
受益面積		耕作面積	ha	目標	753	目標	753
				実績	753	実績	753
鳥獣害による被害面積		被害面積	ha	目標	260	目標	260
				実績	272	実績	270

投入コスト	直接事業費計 (A)	H20 決算	H21 決算	H22 当初予算	H23 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
		1,438	482	584	鳥獣害対策室予算
Aの財源内訳	国庫支出金				
	県支出金				
	地方債				
	その他	0	0	0	0
	一般財源	1,438	482	584	#VALUE!
	事業投入人件費 (B)	0.3 人	2,160 0.3 人	2,160 0.1 人	720 0.0 人
	フルコスト(A)+(B)	3,598	2,642	1,304	#VALUE!

事務事業の評価 (Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)	備考欄(特記事項)
<p>法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業</p> <p>個人の方だけでは対応し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業</p> <p>特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業</p> <p>事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業</p> <p>市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業</p> <p>市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業</p> <p>国や県、民間が同様のサービスを提供している事業</p> <p>市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業</p> <p>民間のサービスだけでは市場全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業</p> <p>受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業</p> <p>事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業</p> <p>【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】</p>	<p>○</p> <p>大山田では村の時代から猿被害が多く農家の一番の悩みとなっているため、猿専用捕獲檻を設置し駆除に努めてきました。特に猿の被害は年中に亘るため、地区で猿檻を管理し農作物の被害防止を図っており、また伊賀市猟友会へ有害駆除を依頼し個体数の適正化及び獣害防止に努めている。</p>
<p>財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業</p> <p>【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】</p>	
<p>事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。</p> <p>基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高</p> <p>サービス水準や対象を見直す余地がある。</p>	<p>近年、有害獣の繁殖力が増大しているが、猟友会員に有害駆除を依頼するとともに、常時猿檻を設置捕獲することにより、個体数を減少させることに努めている。</p>
<p>当初設定した計画を 100% 実施している。</p> <p>予算の繰越の有無 無</p> <p>【予算の繰越がある場合、繰越の種別】</p>	<p>【計画に遅れが生じている場合、改善策】</p>
<p>他の事業主体の活用、事業移管が可能である。</p> <p>基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。</p> <p>【事業名】</p> <p>受益者負担を求めることができる事業である。</p> <p>全体コストにおける負担構成は適正である。</p> <p>コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。</p>	<p>有害鳥獣による農作物被害を減少させるには、個体数を減らすか獣害防止により田畑を守るしか手立てはないため、コスト削減は難しいが、獣害対策事業と連携をして効率の良い対策を実施して行く。</p>

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	<p>狩猟免許取得の推進し、猟友会員の増員に努める。また老朽化により檻が1箇所減となったが、地域に設置した5箇所の野猿捕獲檻での野猿の駆除を引き続き行う。国の特措法である獣害対策事業と連携を図る。</p>
昨年度の取組状況	<p>【状況】 計画のとおり進んでいる</p> <p>【詳細】</p> <p>国の特措法の事業また、猟友会員の増加の推進に努めた</p>

今後の方向性 (Action)

担当課長氏名	土永瑞穂
事業の方向性	<p>【方向性】 他事業と統合</p> <p>【理由】</p> <p>当該地区は特に猿の被害は年中に渡るため今後も地区で猿檻を管理し農作物の被害防止を図って行く。平成23年度より鳥獣害対策室で事業が一歩化となる。</p>
現時点における課題、その他	
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	